

# 第1章 設立経緯

## 1.1 21世紀鋼構造フォーラムの概要

21世紀鋼構造フォーラムは、これからの鋼構造技術の担い手である若手研究者、技術者および設計者が参加し、自由な発想、自由な立場で斬新な鋼構造研究の提案などを行う意見交換の場として、独立行政法人建築研究所（理事長：山内泰之）が呼びかけ、社団法人日本鋼構造協会（会長：千速晃）、社団法人日本鉄鋼連盟（会長：千速晃）の三者で2001年6月に設立した。

フォーラムで提案された内容を対外的に発信する場として、また関係者に広く意見を提案していただく場として2002年11月にシンポジウム「21世紀、鋼構造技術は何ができるか」を開催した第一期の活動、その後、第一期の活動において提案されたテーマを具体化した第二期、成果とりまとめを行った第三期では、鋼構造シンポジウム2004、2006、2007を成果発表の場として活動を行った。この間、フォーラムは、2001年6月～2007年11月までの6年半の活動を行った。

## 1.2 21世紀鋼構造フォーラムの設立趣意書

### 21世紀鋼構造フォーラムの設立趣意書 —シンポジウム「21世紀、鋼構造技術は何ができるか」開催に向けて—

21世紀は我々のこれまでの社会生活を支えてきた大量生産、大量消費システムの時代から、地球環境を機軸にした新たな循環型社会システムへの変換の時代として位置付けられ、今まさにそのための様々な取り組みが世界中で実行に移されようとしております。

また、その一方では新たな社会システムの構築にむけて、産・官・学各界とも新たな枠組みを目指して再編され、あるいは再編されつつあります。

鋼構造技術者・研究者もこれまで、各界において技術開発等により豊かな社会生活の具現化に尽力してきたわけではありますが、このような新たな時代の要請に対し、今後どのように答えていくか、また何ができるのか、またそのためには何が必要なのか検討することは、技術者・研究者に課せられた大きな課題といえます。

これらの社会情勢を踏まえ、これからの鋼構造技術の担い手である若手の技術者・研究者および設計者に呼びかけ、自由な発想でまた自由な立場での斬新な鋼構造研究の新機軸の提案を期待し、意見交換の場としての「21世紀鋼構造フォーラム」の設立を企画致しました。

ここで検討提案されたものについては、各種メディアやシンポジウム開催等を通じて広く対外的に発信し、より広がりのあるものにして行く方針であり、当面の目標としては2002年11月にシンポジウム「21世紀、鋼構造技術は何ができるか」開催を計画しており、広く内外関係者にお集まり頂き有意義なものとしたいと考えております。

本趣旨にご賛同頂く技術者・研究者のご参加を期待致します。

2001年6月

独立行政法人建築研究所 理事長 山内 泰之  
社団法人日本鋼構造協会 技術委員長 藤盛 紀明  
社団法人日本鉄鋼連盟 建築専門委員長 作本 好文